
「お嬢様の憂鬱」×「お嬢様と夜空」

瑠紀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「お嬢様の憂鬱」 × 「お嬢様と夜空」

【ZPDF】

Z3211D

【作者名】

瑠紀

【あらすじ】

「お嬢様の憂鬱」と「お嬢様と夜空」のコラボ作品一・じたばたしそぎてマス。

第1話 料亭に行こう（1）

（瑠斗視点）

「お腹空いたんだけど」
急に璃紗さんが言つた。

「じゃ、どうかの料亭行きます〜？？」

暇なので料亭に行こう。

僕は力バンに無造作に200万ほど入れた。
まあ、これで足りんじゃない？

（料亭）

「すみませんお客様！！！紀奈紅様がどうしてこのお部屋をお借りしたいとの事で・・・」

ハ？何言つてるんだよ？

「何言つてるのよ貴方。私達は予約していたのよ？」

璃紗さんのいう通りだ。

「す、すみません！！！私どもの手違いで・・・」

「何を言つているのかしら。まあ、美人な人。いつしょにお食事されませんか？」

「ん？だれだこの小学生ご一行。

つか、璃紗さんをほめたら・・・

「あ～ら可愛いわ。こんな妹が欲しかったのよ。お姉さまつていつてよお～」

璃紗さんをほめると変態オヤジ化してしまつ。
だからほめないで欲しかつた・・・

「いいですよ。お姉さま。一緒に食べましょ。」

「ええ～。あらわちらの一人の男の子達も可愛いわね～。
む。僕の方が・・・って僕、何思つやつてるんだ。まるで僕が璃紗
さんのことを・・・

（紀奈紅田線）

「今日、サボつて違うとこで飯食べない?きなちゃん

…それつていけないんじや…。

舜斗が行くなら行くけど。

「舜斗も行く?」

「う～ん、今日の給食、嫌いだし…行くか!」

「やつたー!」

雪ちゃんがピヨンピヨン走り回つてゐる。
舜斗が行くならいこか…。

私は、携帯を出す。

プルルルル

「ガチャ…はい、鹿王院です」

「じこやへ今日、あわいに食事しに行きもあらへ。」

「はー、今すぐ手配いたしまーす」

ープープー

私は、携帯をとじる。

「行」

雪ちやんと、舜斗は同時に答えた。

「えいえいへー。」

私は、口に指を当して、

「秘密ー。」

と囁いた。

料亭

「こいつらしさいません、お嬢様」

私と雪ちやんと舜斗は、車から降つる。

「すげーーー。」んな所初めて來たー。」

「僕は、何回も來た」とあるナビね

」

「どうして…」とですの？あの部屋がとれないなんて…私、あそこで食べたいんですの！」

舜斗が来てるんだもの…。

やつぱり、最高級のあの部屋じゃないと…。

「申し訳ありません… 紀奈紅様…」

「知りませぬ…契約を止めさせていただくわよ…」

「わあ… 紀奈紅、性格変わったね…」

「きなちゃん、以外にうだからね。舜斗の前ではまだうだ

「え？ なんか言つた？」

「何も…」

舜斗と雪ひちゃんが「ゴチャヤ、ゴチャヤ言つてのうだ」間にしない。

「と・に・か・く、私はあそこの部屋がいいんです…」

仲居さんが、つぶたえる。

「ちよ……ちよっとお待ち下わせ……」

も、う、嫌！

「紀奈紅……」

「私達は予約していたのよーーー？」

ん？だれの声？
わあ……きれいな人……。

「何を言つてゐるのかしら？まあ。綺麗な人。一緒に食事しません
？」

すると、その人は、ピヨーンと飛び上がつた。

な……何?????

（瑠斗視点）

な、何が起つてんだよ？
あ、てかさ……

「うう……俺の親父の経営しているのひとつなんだけだ……」

「ええ……なんでもうと早くきづかなかつたの？」

だつて今きづいたんだもん。

「お、お坊ちやまー?すみません。私まだ新人なもんで氣づきませんでした!!」

いや・・いいんだけどさ・・自分で新人つて言つなよ・・。

「むかつと来ましたわ。もうこの料亭は売り払います!!!! 瑞斗、文句ありませんね!?」

おいおい・・・ま、いいんだけどさ・・・

「もしもし、お父様?いいですわね?・・・ええ。もう・・・分かりましたわ。」

なんか、ケータイで電話報告してるよつだけど・・・

「ふう・・・もう売り払う予定が付いていたそつなの・・・

さすが変人親子。

あ、ちなみに親は俺の親ね。

「なあ、この人達・・・ぜつたい普通の人じやないよね・・・・

その言葉に全員がうなづいたのは間違いない。

そんな事にも気づいてない瑞斗達は・・・

「新人あやかー！リコフチヨウと鱗鱗ヒマロングワッセ持ってきて

」

「璃紗さん……それ8割が定番のおやつじゃないですか・・・」

なんていってゐし・・・。

「いや定番じゃないから

なんてつゝこみはどこから?・・・・・

～雪ひやん視点～

「じゃあ、僕はきなひやんと回じのー・・・」

僕は、きなひやんと回じのを頼んだ。
だって、きなひやんのことが好きなんだもの・・・。

「ここみ。雪ひやんー・・・」

きなひやんが、ニコッと笑つて言つ。
可愛い…。

キスしたいぐりー。

舜斗は、いいよなきなひやんに好かれてて。

「じやあ、どれにする?・・・」

きなひやんが、僕にソッと寄り掛けてくる。
わわわわわわー！恥ずかしいよー！

でも……襲いたい……

「あーあー、あの子真っ赤よ。可愛いわね~」

一緒になつた綺麗な女の人、
あれ? この人どつかで見たよつな。
気のせい? ?

「…ひちやん…雪ひちやん…」

「はーー! ?」

僕は、きなちやんに返事する。

「どれ? するの? ?

僕達の唇と唇が近い。

不用心だなあ、きなちやんは。
可愛いんだから、用心しないといけないでしょ?

「うーんと……じゃあ、コレ! ?

僕は、でたらめに指す。

きなちやんと一緒に向でもいいんだ

「オレもそれで」

舜斗が言つ。

チツ!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3211d/>

「お嬢様の憂鬱」×「お嬢様と夜空」

2010年10月11日04時12分発行